



市民クラブ
柴田 文男
議員

緑寿園の建て替えについて

質問 滝川市社会福祉事業団が、江部乙町東13丁目の国道沿いに建て替えを予定しているが、「日本で最も美しい村」連合加盟にあたっては、景観等への十分な配慮がなされるべきではないか。

答弁 事業団が現在進めている基本設計においても、「美しい村をつくる」を基本コンセプトとして江部乙町の伝統・文化・風景を意識した設計を進めています。新築移転される建物は全国的に見ても大規模なものとなる予定であり、景観と調和したものとなるよう市も一緒に検討していく予定です。

質問 過大投資とならないよう、将来負担の低減に努力すべきと思うが、現状での分析について伺う。

答弁 建設経費の増大により、当初の見込みを上回る投資を行うこととなりますが、国や北海道などからの助言を参考に、健全な運営が担保されるよう事業団と一体と

なっており、計画づくりに取り組みます。

35人学級の拡大について

質問 35人学級の維持に懸命の努力をされている市長をはじめ、教育関係者に敬意を表する。本市独自の「小学校全学年の35人学級」導入へ向けた考えを伺う。

答弁 実践研究事業として導入している学校からは、多くの成果が報告されており、子ども達へのきめ細やかな指導につながっています。全学年35人学級につきましては、本市教育の重点施策と位置付けており、拡充の要望を踏まえ、費用対効果など十分に検討していきます。

質問 小学校での空き教室を利用した「イングリッシュ・ルーム」の導入について伺う。

答弁 今年度、同様の取り組みを江陵中学校で行いましたが、子ども達のコミュニケーション能力の開発・育成につながるとともに、外国語指導助手のネイティブな英会話と触れ合うことによる国際的感性の醸成も期待されるところです。中学校での実践も踏まえ、活用を検討したいと考えています。



市民クラブ
山本 正信
議員

新たな滝川農業の構築について

質問 平成25年第3回定例会でも農業所得確保のための新たな滝川農業の構築対策を伺ったが、その後の取り組みの進捗状況と農家戸数の減少を食い止める対策を検討しているのかを伺う。

答弁 農業者の所得確保のために、農産物の直接販売や付加価値向上対策としての6次産業化の推進、生産性向上と作業効率向上のための生産基盤の整備事業を進めています。また、農業法人の育成・高収益作物の導入など、力強い滝川農業づくりに努めています。

農家戸数減少対策では、新規就農者の募集等あらゆる対策を講じ、担い手確保に努めていきます。

米の作況と今後の対策について

質問 平成26年産米の価格下落に対し、担い手経営安定対策が発動になるが、交付が平成27年6月であり、それまでの間は無利子融資

が実施されること。国に更なる対策・支援を求めているのか伺う。

答弁 国では、大量発生した未熟米を考慮した収量で交付金を算定する方向で検討中とのことであり、国への要望については、収入減少影響緩和対策の結果を注視し、他市町村・関係機関と連携しながら必要に応じて行っていく予定です。

質問 本市独自の資金の対応の考えはあるのか伺う。

答弁 現在、国では当面の資金繰りとして、米生産者に対して農林漁業セーフティネット資金の貸付を一年間無利子対応すると聞いており、現時点では、市として独自の対応は考えていません。

米穀調製施設の老朽化対策について

質問 滝川市穀類乾燥調製施設（北の米蔵）の施設機器の老朽化対策について、JAたきかわと協議して検討したいとのことだったが、その進捗状況を伺う。

答弁 JAたきかわが平成27年からの3か年計画を策定中であり、その結果を踏まえ、今後も協議を進めていきます。